

小 学 校

平成 2 8 年度

教育研究員研究報告書

道 徳

東京都教育委員会

目 次

I	研究主題設定の理由	1
II	研究の視点	2
III	研究仮説	2
IV	研究の方法	2
V	研究内容の概要	3
1	基礎研究	3
2	研究構想図	4
3	調査研究	5
4	研究に迫る手だて	7
5	実践事例	
(1)	第1学年 主題名：自分のよさを見つめよう A 個性の伸長 資料名：「ぞうさんのおはな」	8
(2)	第5学年 主題名：きまりの意義 C 規則の尊重 資料名：「借りたはずの自転車」	12
(3)	第3学年 主題名：思いや考えを伝え合う B 相互理解・寛容 資料名：「伝えたいこと」	16
(4)	第4学年 主題名：私心にとらわれず C 公正、公平、社会正義 資料名：「二まいの絵」	20
VI	研究の成果と課題	24

研究主題

自他の関わりを通して、自己の生き方について考えを深める「特別の教科 道徳」

～ねらいを明確にし、多面的・多角的に考えるための指導の工夫～

I 研究主題設定の理由

平成 27 年 3 月、学校教育法施行規則の一部改正により、「道徳」は「特別の教科 道徳」と位置付けられた。小学校においては、平成 30 年度より全面実施となるが、平成 27 年 4 月より移行措置としてその一部、又は全部を実施することが可能となっている。「特別の教科 道徳」と位置付けた背景として、深刻ないじめの問題や、子供をとりまく地域や家庭の変化等がある。また、道徳教育を実施する上で、効果的な指導方法が分からない、児童へ道徳的価値を理解させることが不十分である、学習内容を自分のこととして捉えさせる意識が薄い等の教員の指導の課題も浮き彫りとなった。

これらの課題を解決するために、「自己の生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養うこと」を学校における道徳教育の目標に位置付け、新たな枠組みによって教科化し、いじめの問題に対応した内容を充実させること、効果的な指導方法を明確化し、全ての教員が習得できるよう普及することなど質的転換を図るようにした。

「小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編」（平成 27 年 7 月）には目標について次のように示されている。

「第 3 章 特別の教科 道徳」の「第 1 目標」

「第 1 章総則第 1 の 2 に示す道徳教育の目標に基づき、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。」

具体的には、児童が「自分ならどうするか」という観点から道徳的価値と向き合うとともに、自分とは異なる意見をもつ他者と議論することを通して、道徳的価値を多面的・多角的に考えることや、多面的・多角的な思考を通じて、道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めることが重要とされている。

そこで本研究では、教員がねらいとする育てたい「道徳性」を明確にすることで、児童が自分の考えをもち、話し合い等の活動を通して他者と関わり合いながら、多面的・多角的に考えることができる考えた。このことにより児童が学習内容を自分のこととして捉え、道徳的価値への理解を深めることができると考え、研究主題を「自他の関わりを通して、自己の生き方について考えを深める『特別の教科 道徳』」と設定した。また、副主題を「ねらいを明確にし、多面的・多角的に考えるための指導の工夫」とし、新学習指導要領の内容の中から、特に「道徳

性（道徳的判断力、道徳的心情、道徳的実践意欲、態度）」と「多面的・多角的に考えること」に着目し、授業の中で道徳的価値について、意見を交流したり考えを深めたりする場面を意図的・計画的に設けることとした。

II 研究の視点

児童が自己の生き方について考えを深めるためには、授業の中で自己への振り返りの時間を十分に確保することが必要であると考えた。また、自己への振り返りの時間は、一人でじっくり考えるのみならず、他者と考えを交流することで、より深い自己の振り返りができると考える。自己の考えをもち、他者と関わり合い多様な考え方や価値観に接することで、自らの考えを広げたり深めたりすることが、自己の生き方への考えを更に深めていくであろう。それが道徳的価値への理解へとつながると考えた。

III 研究仮説

ねらいを明確にし、多様な考え方・感じ方に接することのできる発問の仕方を工夫することで、自己や他者を見つめ、よりよく生きようとする児童を育むことができるだろう。

「小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編」(平成 27 年 7 月)には「教師による発問は、児童が自分との関わりで道徳的価値を理解したり、自己を見つめたり、物事を多面的・多角的に考えたりするための思考や話し合いを深める上で重要」とある。そこで本研究では、児童に多面的・多角的に考えさせるために重要なのは発問を吟味することに焦点を当てた。これまでは、登場人物の心情のみを問い、児童の考えを深めさせることが十分ではない授業が見られた。しかし、発問の仕方を工夫することにより、児童の多様な考え方、感じ方を引き出し、多面的・多角的に考えさせることができると考えた。また、発問次第で「道徳的心情」を問うだけでなく、「道徳的判断力」や「道徳的実践意欲・態度」へとねらいを変えることもできる。

IV 研究の方法

1 基礎研究	2 調査研究	3 授業研究
○小学校学習指導要領特別の教科道徳編（平成 27 年 7 月）より 「多面的・多角的」に考えることの意義	○教員の現状調査と分析 ○児童の変容調査と分析	○基礎研究・調査研究を基にして作成した授業の検証 1 育てたい「道徳性」を重視した指導の工夫 2 「多面的・多角的」に考える指導の工夫
道徳性（道徳的判断力、道徳的心情、道徳的実践意欲、態度）の相関性		
○基礎研究グループ、調査研究グループに分かれて話し合い、全体で議論する。		○低・中・高学年分科会で作成・提案し、全体で議論する。

V 研究内容の概要

1 基礎研究

○ 「多面的・多角的」に考えることの意義

「小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編」(平成 27 年 7 月)には、「よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うためには、児童が多様な考え方・感じ方に接すること」とある。「多様な考え方・感じ方に接すること」とは、主人公の心情を考える、児童が自分のこととして捉える、児童が立場をかえて考えるなどが考えられる。そして、「道徳教育に係る評価の在り方に関する専門家会議」(平成 28 年 7 月 22 日)には、道徳科における多面的・多角的に考える学習について、以下の内容が記述されている。

- ・ 読み物教材の登場人物への自我関与が中心の学習
- ・ 問題解決的な学習
- ・ 道徳的行為に関する体験的学習 ※ただし、指導方法はこれらに限定されない。

このような学習を取り入れることで、児童が自ら道徳的価値の理解を基に自己を見つめ、広い視野から多面的・多角的に考え、主体的に学習に取り組むことができる。そうすることによって、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うことができると考える。本研究では、読み物教材の登場人物への自我関与が中心の学習について授業研究を行っていく。

○ 「道徳性」(「道徳的判断力」・「道徳的心情」・「道徳的实践意欲と態度」)の相関性

道徳性とは人間としてよりよく生きようとする人格的特性である。道徳教育は道徳性を構成する諸様相である道徳的判断力、道徳的心情、道徳的实践意欲と態度を養うことを求めている。

- ・ 道徳的判断力とは、それぞれの場面において善悪を判断する能力である。
- ・ 道徳的心情とは、道徳的価値の大切さを感じ取り、善を行うことを喜び、悪を憎む感情のことである。
- ・ 道徳的意欲とは、道徳的判断力や道徳的心情を基盤と道徳的価値を実現しようという意志の働きである。
- ・ 道徳的態度とは、判断力、心情、意欲に裏付けられた具体的な道徳的行為への身構えである。

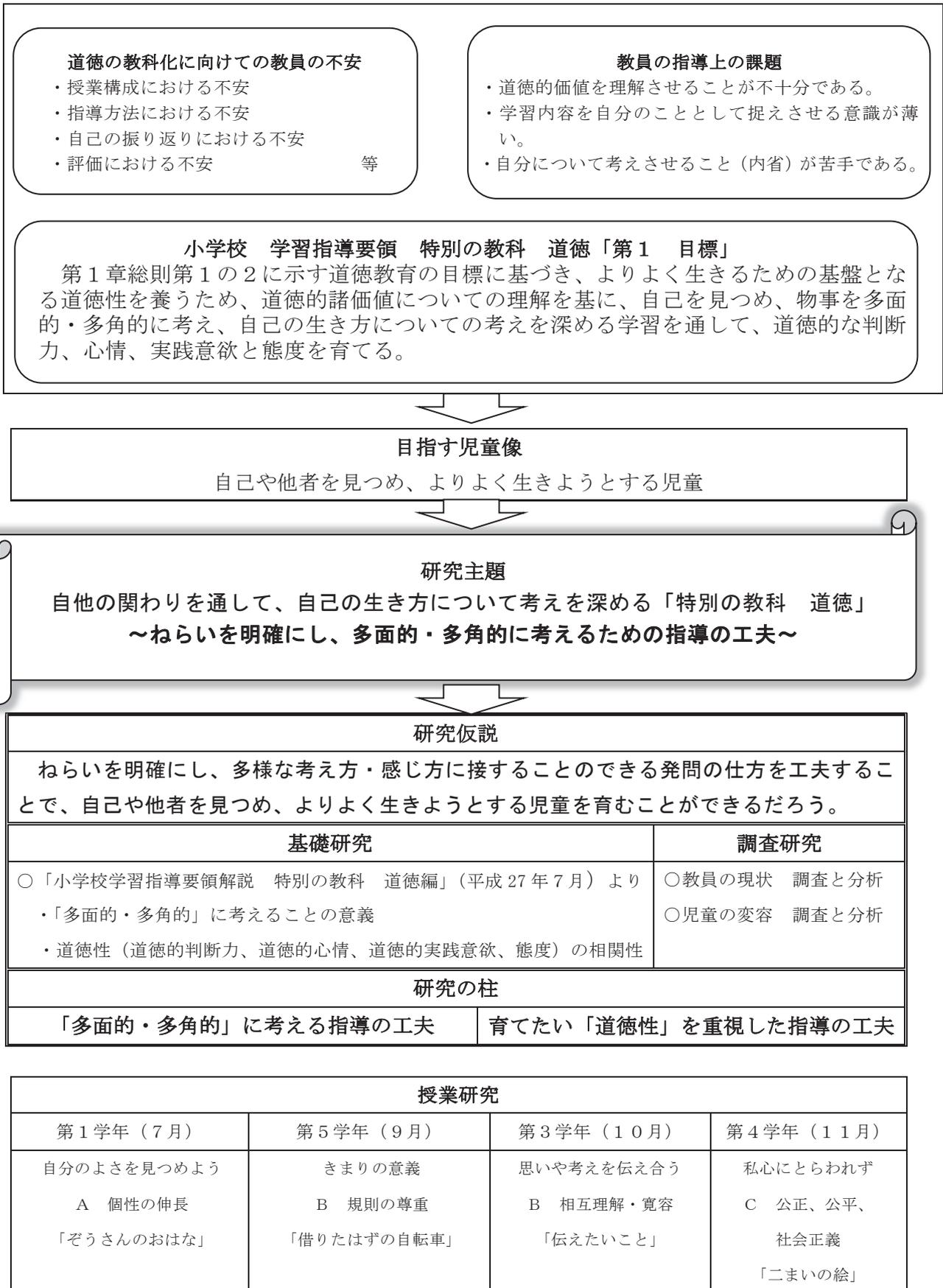
これらの道徳性の諸様相には、特に序列や段階があるということではない。一人一人の児童が、道徳的価値を実現するための適切な行為を主体的に選択し、実践することができるような内面的資質を意味している。

「小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編」(平成 27 年 7 月)より抜粋

「序列や段階があるということではない」とあるのは、道徳的態度を養っていく授業と、道徳的心情や道徳的判断力を養っていく授業とを同等に扱っていく必要があると捉えた。

道徳的行為を主体的に選択し、実践できるようにするためには、道徳科においてねらいを明確にし、長期的な展望と綿密な計画に基づいた丹念な指導をすることにより、道徳性を徐々に、着実に養っていくことが大切である。

2 研究構想図



3 調査研究

【調査目的】

- ・児童の「多面的」、「多角的」、「道徳性」、「自己への置き換えや立場の変化」に関する意識や実態を調査することにより、研究仮説の根拠とするとともに、授業における発問構成等に生かす。
- ・教員に対する、「道徳の教科化」に関する意識調査を実施する。
- ・教員の授業をする上での不安感や現在課題に思っていることなどを分析し、授業研究に生かしていく。

【調査対象】

都内小学校 15 校の児童 低学年 157 名 中学年 229 名 高学年 142 名
 都内小学校 15 校の学級担任 226 名

【調査方法】

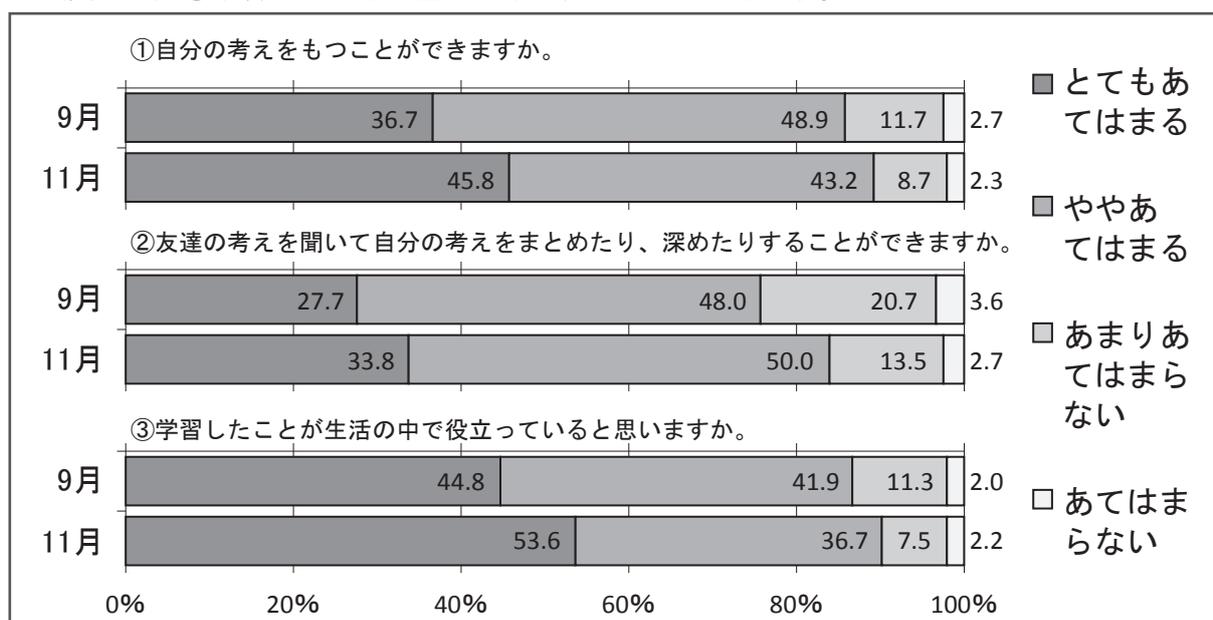
質問紙法 (全学年共通 選択式)

(1) 児童

(質問 1) ①自分の考えをもつことができる。

(質問 2) ②友達の考えを聞いて自分の考えをまとめたり、深めたりすることができる。

(質問 3) ③学習したことが生活の中で役立っていると思う。



<考察>

① 自分の考えをもつことができますか。

「あてはまる」と答えた割合が上昇したが、これは、後に検証授業で記載のある心情円盤の活用や葛藤場面を問う発問、グループでの話し合いなどが有効的であったと考えられる。このような手だてにより、一人一人が問題意識をもって学習に参加するようになり、自分の考えをもつことができる児童が多くなったと考えられる。

② 友達の考えを聞いて自分の考えをまとめたり、深めたりすることができますか。

③ 全体での割合をみると「あてはまる」と答えた割合が 33.8 パーセントと上昇している。

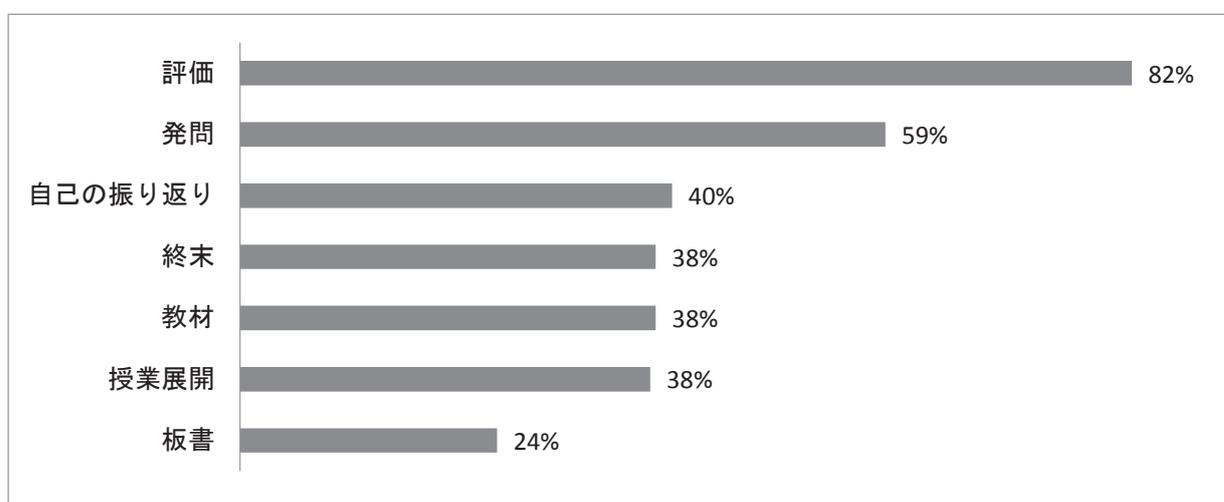
検証授業で行ったハンドサインや心情円盤、ワークシートの活用による考えの可視化などが有効的であったと考えられる。今後も、多様な考え方や感じ方に触れたり、自他の意見を比較したりすることを通して、自らの考えを広げ深めるための手だてを考えていく必要がある。

③ 学習したことが生活の中で役立っていると思いますか。

90.2パーセントの児童が役立っていると回答している。検証授業では、「自分ならどうするか」という観点から児童一人一人が道徳的価値に向き合うことや、「これからどうしていきたいか」という今後の見通しをもった振り返りを行うための手だてを考えた。今後もこうした活動を授業の中で積み上げていくことを大切にし、自己の生き方についての考えを深めるための指導を工夫していきたい。

(2) 教員

(質問1)「特別の教科 道徳」の実施に向けて、授業するに当たって課題だと感じることはどのようなことですか。(複数選択可)



< 考察 >

- ・課題に感じることとして、「評価」が82%、「発問」が59%と2項目が割合として高い。教科化にあたり、8割以上の教員が課題に感じていることが分かる。評価方法や記述、児童の見取り方など、評価全般に課題を感じており、評価を見直す中で、めあて、発問、評価を一体として捉え、「今まで通りの発問でよいのか」等、発問や発問構成に課題があることに気付いた教員が多かったと言える。
- ・一方で、「終末」、「教材」、「授業展開」、「板書」は40%以下となっている。教科化における、終末や教材の取扱い、授業展開や板書に対しての課題意識は高くない。

以上のことから、ねらいに迫るための多面的多角的な発問を行い、的確な評価につなげるよう指導を工夫していく必要がある。ねらいに迫る多面的多角的な発問を通し、道徳性を養うことを課題として捉えている教員が多いことが実証できた。

4 研究に迫るための手だて

(1) 育てたい「道徳性」を重視した指導の工夫

○ねらいの焦点化

この授業で何を育てたいのか（「道徳性」について：道徳的な判断力・道徳的な心情・道徳的な実践意欲と態度）を、学年の発達段階に応じて考える。

○教材研究

教材を深く読み込み、場面分析を行うことで、ねらいを達成するためにどの場面にどの部分で発問を行うのが有効かを考える。また、絵等の教材提示の必要性についても考える。

○発問の工夫

それぞれの「道徳性」（道徳的な判断力・道徳的な心情・道徳的な実践意欲と態度）に対応できるように発問を工夫する。（道徳的な判断力については、物語の中での出来事や人物の行為に対する判断やその理由、道徳的な心情については、人物への共感から自己の振り返りの中で似た経験を想起、道徳的な実践意欲と態度については、これから心掛きたい・したいこと、具体的な方法や言動等）

○振り返りの工夫

自己の振り返りの時間を十分に確保することにより、自分自身について考えられるようにする。ワークシートを用意して自分の考えが整理しやすくなるようにする。その際、なかなか書けない、自分の考えが思い浮かばない児童のために、考えのヒントとなるように板書を工夫したり、他教材等を参考にさせたりする等の支援を必要に応じて行う。

(2) 「多面的・多角的」に考える指導の工夫

○教材提示・板書の工夫

登場人物や場面の絵を効果的に掲示することで児童が物語の世界に入り込みやすくなるようにする。また、児童の意見を書く位置や吹き出し、表を活用する、時系列に捉われないう等、構造的に板書を行うことで、児童が授業展開をより把握しやすくなるようにする。

○発問の効果をも高める工夫

登場人物の気持ちだけでなく複数の人物の気持ちを考えさせる。人物に共感させるとともに「自分だったら」という自我関与をうながすことで物事に対する考えの多様化やそれにともなう深まりを図る。

また、中心的な発問だけでは深まりが十分ではない場合に備え、児童の発言に対して詳しい内容を問い返すことができるよう、よりポイントをしぼった補助発問を用意しておく。

○活動の工夫

場面で役割を決めて動作化したり、グループで話し合い活動を行って考えを交流したりすることで、児童一人一人の考えの深まりを図る。

5 実践事例

(1) 第1学年

①主題名 自分のよさを見つめよう A 個性の伸長

②教材名 「ぞうさんのおはな」（東京都道徳教育教材集「特別の教科 道徳」移行措置対応）

③研究主題に迫るための手だて

【ねらいとする道徳的価値に関する実態把握と活用】

調査内容：自分の「よいところ」を記述させる。

調査目的：自分の長所に気付いているか把握するため。

調査方法：事前にアンケート調査を行う。

考察：自分には「よいところ」があると答えた児童が14名、分からないと答えた児童が5名であった。具体的な「よいところ」として挙げたのが、「工作が得意、足が速い」など技能的な事柄（〇〇ができる、〇〇が上手、〇〇が得意といったこと）であり、「やさしい」「いろんな友達と遊べる」といった心の豊かさの面はあまり挙げなかった。周りの人（保護者、幼稚園・保育園の先生など身近な大人）に褒められたことが自分のよいところと考えている児童が多かった。

【育てたい「道徳性」を重視した指導の工夫】

(ア) 振り返りの工夫

「自分のよいところ」について考える時間を十分にとる予定であるが、よいところが思い浮かばない児童も多くいると考えられる。そこで、「自分のよいところ」を自分なりに考えることができるように「わたしたちの道徳P158」を参考にさせる。また、保護者からの「あなたのよいところ」を伝える手紙を用意しておくことにより、そこから自分のよさに気付くことができるようにする。

【「多面的・多角的」に考える指導の工夫】

(ア) 発問の工夫

この時期の児童は発達の段階から、自分自身を客観視することが十分にできるとは言えず、児童が自分の特徴に気付く契機となるのは、他者からの評価によることがほとんどである。また、本教材では、他者との関わりの場面として、①ぞうが自分の長所を認められない場面 ②お母さんから話を聞く場面 ③友達（わに、かば）から認められる場面が描かれている。他者との関わりから自分の長所を考えられるような発問を工夫することで、多面的・多角的に考えられるようにしたい。

(イ) 活動の工夫（動作化）

中心的な発問は、ぞうが自分の長所に気付く場面である。自分の長所に気付くためには、他者からの評価も必要である。しかし、1年生の1学期には、複数の立場の気持ちを考えることは難しい。そのため、場面の状況を理解させるための手だてとして、お面を使って動作化を行う。ぞう、わに、かばの関係を整理しながら気持ちに迫らせない。

(ウ) 教材提示、板書の工夫

児童が教材を理解し、物語の世界に入り込むことができるように、黒板シアターを用いて教材提示をする。また、出来事や心情の変化を整理し、ぞう、わに、かばの関係を把握

できるよう、構造的に板書を組み立てていく。

④本時のねらい

長所を認められたぞうの気持ちを考え、自分自身を振り返ることで、自分の長所に気付く。

⑤学習指導過程

	学習活動 (○主な発問 ・ 予想される児童の反応)	◆指導上の留意点●発問の意図 ◇評価
導入	1 教材や価値への興味・関心を導く。 ○好きな動物は何ですか。その動物にはどんなよいところがありますか。 ・うさぎ。跳ぶのが上手。	●好きな動物とその理由を考えることで、長所に目を向ける学習であることを意識付ける。
展開	2 「ぞうさんのおはな」を読んで話し合う。 ○とぼとぼと家に帰ったぞうさんは、どんな気持ちだったのでしょうか。 ・みんなと同じがいいのに。 ・ぼくだけどうして鼻が長いのかな。いやだな。 ○お母さんから「長い鼻でいろいろなことができる。いいことがたくさんある。」と聞いたぞうさんは、どんな気持ちだったのでしょうか。 ・本当だ。長い鼻で木の実を採ったり、水遊びをしたりできるんだ。 ・長い鼻のいいところを忘れていたよ。 ◎大きく大きくお鼻のシャワーをふき上げているぞうさんは、どんな気持ちだったのでしょうか。	◆黒板シアターを用い、読み聞かせる。 ●みんなと違う自分の長所を認められないぞうの気持ちに気付かせる。 ◆長い鼻がよいところなのか葛藤するぞうの気持ちを多面的・多角的に考えさせる。 ●お母さんの話から、ぞうが自分の長所を思い出した（見付けた）ことをおさえる。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>【動作化】お面を使って役割を整理しながら ぞう：長いお鼻で木の実を採り、わにさんとかばさんに一つずつあげました。 わに：「ぞうさん、ありがとう。」 かば：「きみのお鼻は、いろいろなことができるんだね。」</p> </div> <p>(①ぞうの気持ち) ・わにさんとかばさんが喜んでくれた。 ・ぼくの鼻が役に立って、うれしいな。 ・長い鼻がぼくのいいところなんだ。 ・自分のいいところを見つけて、うれしいな。 (②わに、かばの気持ち) ・ぞうさん すごいね。 ・ぞうさんのおかげで、楽しくあそべた。</p>	<div style="border: 2px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-bottom: 10px;"> <p>友達の中で自分の長所が生かされたぞうの気持ちを多面的・多角的に考えさせる発問。</p> </div> <p>◆【動作化】3人組で立場を交代しながら、それぞれの気持ちを考えることで、「自分の長所」に多面的・多角的に迫っていく。 ①ぞう（板書） 自分の長所を友達に認めてもらい、自分のよさに気付くことができたぞうの気持ちを考えさせる。 ②わに・かばの気持ち（板書） わにさんとかばさんは、ぞうさんのお鼻のことをどう思ったのだろう。</p>

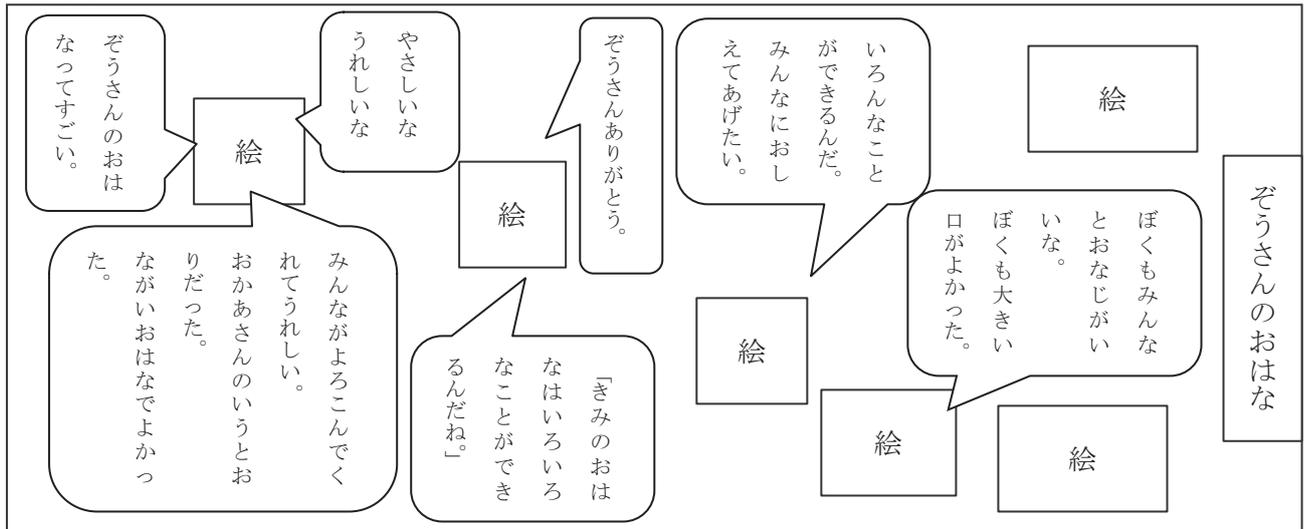
展開	<p>3 自分のことを振り返る。</p> <p>○「自分のよいところ」は、どのようなことだと思いますか。（「わたしたちの道徳158ページ」を参考に考えてみましょう。）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・妹にやさしい。 ・お手伝いを進んでやっている。 	<p>ぞうの長所を友達が認めたということを理解させる。</p> <p>◆自分で「自分のよいところ」を考えた後に、保護者からの「あなたのよいところ」を伝える手紙を読み、より自分のよさを考えられるようにする。</p> <p>◇自分の長所を発表している。</p>
終末	<p>4 「自分のよいところ」に関する歌を歌う。</p> <p>（世界に一つだけの花）</p>	

⑥授業記録

	教師の発問と児童の反応・発言など	
導入	T：好きな動物はいますか。好きな動物にはどんなよいところがありますか。	C：ハムスター 小さくてかわいい。
		C：犬 お手をしたり、ぼくの言うことを聞くところ。
展開	T：とぼとぼと家に帰ったぞうさんは、どんな気持ちで帰ったのでしょうか。	C：ぼくも大きい口がよかった。
		C：どうしてぼくは口が小さくて、鼻が長いのだろう。
		C：みんなと同じようになりたかった。
	T：お母さんから「長い鼻でいろいろなことができる。いいことがたくさんある。」と聞いたぞうさんはどんな気持ちだったのでしょうか。	C：木の実を取ったり、水を出したりできるんだ。
		C：みんなをびっくりさせたいな。
	T：でも、すごくよかったとかうれしい気持ち？少し不安がある様子だね。	(C：うなづく)
	T：次の日、シャワーで水遊びをしているぞうさんはどんな気持ちだったのでしょうか。	
	【動作化】	
	T：ぞうさんはどんな気持ちでしたか。	C：お母さんの言う通り、こんなことができるんだ。
		C：うれしい。
		C：長いお鼻があってよかった。
	T：わにさんはどんな気持ちでしたか。	C：ぞうさんの鼻が長くてよかった。
		T：かばさんはどんな気持ちでしたか。
		C：鼻の長いぞうさんと友達になれてよかった。
	T：今度はみなさんのことを考えましょう。自分のよいところはどんなところですか。	C：友達にやさしいところ。
		T：ほかにも、本をたくさん読む人、みんなと仲良くできる人もいますね。

	T：みなさんのよいところをおうちの人がお手紙に書いてくれています。読んでみましょう。 (C：嬉しそうに読んでいる。)
終末	T：自分のよいところを考えながら歌いましょう。(「世界に一つだけの花」) T：今日の学習の振り返りをしましょう。 (C：ワークシートに記入) ①ぞうさんの気持ちをよく考えましたか。 ②「自分にもよいところがある」と分かりましたか。

⑦板書



⑧成果と課題

成果

【育てたい「道徳性」を重視した指導の工夫】

○振り返りの工夫

- ・保護者からの手紙は大きな効果があった。全員の児童が自分のよいところを考えることができた。
- ・事前アンケートによって実態を把握した際に「自分のよいところがない」と書いた児童が、授業により「自分のよいところ」に気付くことができ、変容を見取ることができた。

【「多面的・多角的」に考える指導の工夫】

○活動の工夫（動作化）

- ・動作化により、様々な立場（ぞう、わに、かば）を経験でき、多面的・多角的に考えることができていた。

○教材提示の工夫

- ・黒板シアターの活用は、児童が場面を把握するのに有効であった。

課題

【育てたい「道徳性」を重視した指導の工夫】

○振り返りの工夫

- ・保護者からの手紙で知った「自分のよいところ」を発表したり、感想を話したりすることによって、さらにねらいに迫ることができる。とよい。

(2) 第3学年

- ①主題名 思いや考えを伝え合う B 相互理解・寛容
②教材名 「伝えたいこと」(東京都道徳教育教材集「特別の教科 道徳」移行措置対応)
③研究主題に迫るための手だて

【ねらいとする道徳的価値に関する実態把握と活用】

調査内容：以下の項目について自分の考えを記述させる。

ア 友達にうまく自分の気持ちが伝えられなかった経験。また、それによって友達ともめてしまった経験。

イ アのときに、どうしたら解決することができたか。

調査目的：「相互理解・寛容」の児童の内面的実態を把握するため。

調査方法：事前に意識調査を行う。

考察：「友達にうまく自分の気持ちが伝えられず、けんかになってしまったことはありますか」という発問に対し、「ない」と答えた児童が多い。このことから、自分の気持ちを伝えられなかったことにより、トラブルにつながることに気付かない児童がいることが分かる。また、気付いていながらも「自然にトラブルが解消した」という解決を書いている児童が多いため、本授業の中でトラブルの要因と解決への手掛かりを顕在化していく必要があると考えた。

【育てたい「道徳性」を重視した指導の工夫】

(ア) 教材選択の意図と役割演技

本教材は、二人の気持ちを書き込めるようになっている。この形式を活用し、児童が自分の意見に自信をもって役割演技に臨むことにより、児童の道徳的態度を引き出すことができると考えた。

【「多面的・多角的」に考える指導の工夫】

(ア) 発問の工夫

登場人物の美夏と直人、双方の気持ちを問う発問を設定し、立場が違う二人について考えさせることにより、多面的・多角的に考えることを促すことができると考えた。

(イ) 板書の活用

時系列に捉われない構造的な板書をすることで、児童が思考の流れを捉えやすくする。

④本時のねらい

美夏と直人、双方の立場の心情を考えることを通して、相手の考えを理解しようとする態度を育てる。

⑤学習指導過程

	学習活動 (○主な発問 ・予想される児童の反応)	◆指導上の留意点●発問の意図 ◇評価
導入	1 教材や価値への興味・関心を高める。 ○友達に自分の気持ちを伝えられなかった経験についてのアンケートに、このような意見がありましたので紹介します。	◆事前アンケートで、学級の中で起きた「お互いの気持ちを伝えられなかったためにトラブルが起きてしまった」意見を紹介する。

2 「伝えたいこと」を読んで話し合う。

○美夏さんと直人くんがけんかをしているとき、美夏さんは直人くんに対して、どんなことを思っているでしょうか。

- ・ 掲示物の仕事は日直の仕事ではない。(直人の仕事のやり方についての不満)
- ・ 直人は口うるさい。もっと言い方を考えてほしい。(直人に対する不満)
- ・ 私の事情を聞かない直人は思いやりのない。私のお話を聞いてほしい。(自分の事情)
- ・ 直人くんの言うことも聞いた方がよいかな。(直人への歩み寄り)

○美夏さんと直人くんがけんかをしているとき、直人くんは美夏さんに対して、どんなことを思っているでしょうか。

- ・ 仕事を一生懸命やろうとしている僕が正しい。(仕事へのこだわり、先生の言葉の受け止め方)
- ・ 美夏はだらしない。(美夏に対する不満)
- ・ 美夏ちゃんにも何か事情があるかもしれない(美夏への歩み寄り)

◎二人が少しずつ変わって仲よくなる前に、二人の間にどんな会話があったと思いますか。

【美夏の言葉】

- ・ 昨日はごめんね。
- ・ 実は、おばあちゃんのお見舞いに行ってたんだ。おかげでおばあちゃんに会うことができたよ。ありがとう。
- ・ 直人くんの言っていることは正しいけれど、もう少し優しく言ってほしいな。
- ・ 私も注意されたらしっかりするね。

【直人の言葉】

- ・ 昨日はごめんね。
- ・ でも、何も聞かずに自分のやりたいことだけやっでごめん。これからはちゃんと聞くね。
- ・ 僕も言い方がきつかったよ。次からは言い方を考える。
- ・ 先生から言われたことを思い出して、やった方がいいと思ったことがあったんだ。

◆美夏と直人がけんかをしている状況であることについて二人の表情を描いた場面絵を使って押さえる。

美夏と直人の立場を両方考えさせることで、美夏と直人の心情にそれぞれ共感させるとともに、問題に対して多面的に考えさせることをねらいとした発問。

●相互理解のために必要な態度について問うことをねらいとした発問。

◆「東京都道徳教育教材集「特別の教科 道徳」移行措置対応」52 ページに書き込ませた後、児童同士で役割演技をさせ、意見を交流させる。

◆グループ(3～4人程度)を作り、ペアをつかって、美夏役と直人役を行う。美夏役や直人役は適宜入れ替えさせる。役割演技をしていない児童は、その演技を見てどう思ったかを演技者に伝える。

◆挙手による指名と意図的な指名の両方で、数組役割演技をさせ、教員はそれを聞き、発表後にキーワードを板書する。

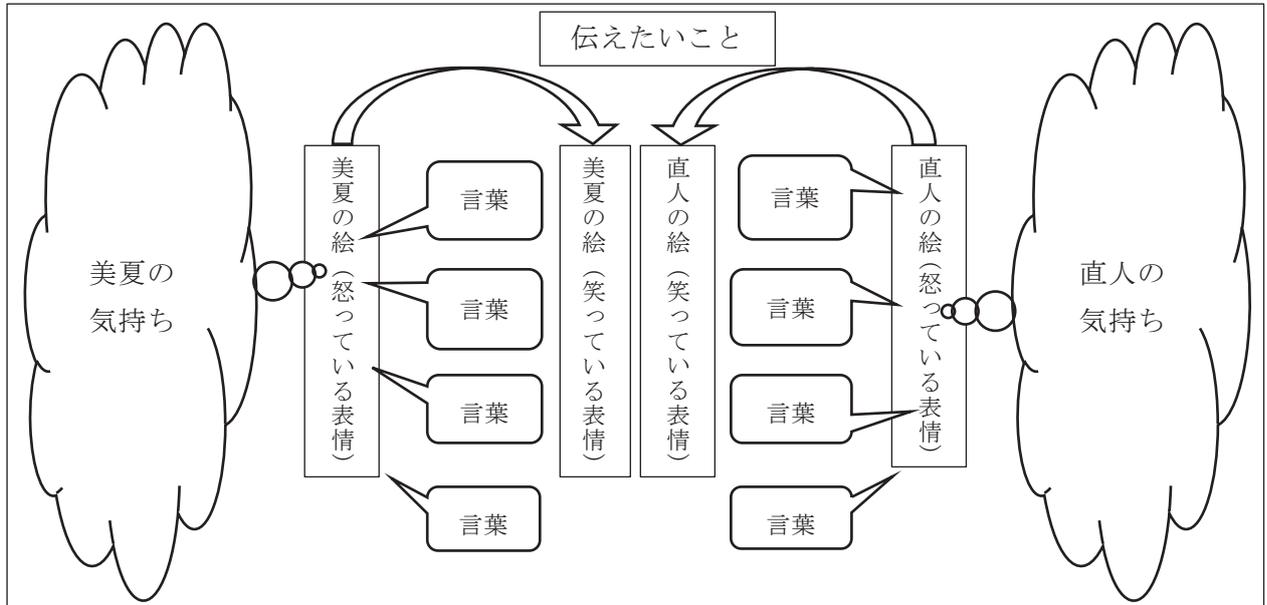
	<p>3 自分のことを振り返る。</p> <p>○今日の授業で、大切なことは何だと思いましたか。ワークシートに書きましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手の気持ちを考えることが大切。 ・自分の気持ちをきちんと伝えることが大切。 ・相手の話を聴くことが大切。 	<p>◆冒頭で紹介したアンケートを再度想起させることで、自分の身近にあることとして捉えさせる。</p> <p>◇ワークシートに相互理解のために必要となる寛容な態度についての記述がされている。</p>
終末	4 教師の説話を聞く。	

⑥授業記録

教師の発問と児童の反応・発言など	
導入	<p>T：クラスでもめごとがあるようです。みなさんもこのようなことがありますか。</p> <p>C：習い事があるので、いつも一緒に帰っている友達をおいて先に帰ったら次の日に口をきいてくれなかった。</p> <p>C：「私が片付けてあげる。」と言ったら急に相手が怒りだした。</p>
展開	<p>T：美夏は、けんかをしている時にどんなことを考えていたでしょうか。</p> <p>C：言いたいけど言えない。 C：どうしよう。</p> <p>C：帰りづらいな。 C：帰らなきゃいけない。何もたもたしてるの。</p> <p>C：やらなくたっていい。日直の仕事じゃないし。</p> <p>T：直人は美夏をどう思ったでしょうか。</p> <p>C：だれかが画鋏を踏んだらあぶないよ。 C：何で怒っているんだろうな。</p> <p>C：なにか理由があるのかな。 C：みかちゃんも一緒にやってよ。</p> <p>C：先生が言ったことを忘れたのかな。 C：少し遅れるくらいで何でやらないの。</p> <p>T：一体2人はどんなお話をしたのでしょうか。</p> <p>【ワークシートに書く→役割演技】←ペアでやっているのをグループの二人が見る。</p> <p>T：どんな会話があったと思いますか。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>みか：ごめんね。</p> <p>直人：えらそうなこといってごめん。</p> <p>みか：ごめん。</p> <p>直人：先生が言ったことをやらないんだって思った。</p> <p>みか：ごめんね。</p> <p>直人：一緒に手伝ってくれる。</p> <p>みか：うん。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>みか：私はすぐに怒ってごめんなさい。</p> <p>直人：ぼくも伝えられなくてごめん。</p> <p>みか：私こそごめん。</p> <p>直人：危ないから今度やってね。</p> <p>みか：直人も小さいことをあんまり言わないでほしいな。</p> </div> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>みか：伝えたかったんだけどおばあちゃんの誕生日だったんだ。</p> <p>直人：よかったね。昨日なんで怒って帰っちゃったの。</p> <p>みか：おばあちゃんのことがあったから。</p> <p>直人：今度からは、やってね。</p> </div> <p>T：(導入のアンケートを指して) このクラスにもこんなことがありました。今日の授業を受けて大切なことは何だと思いますか。【ワークシートに書く】</p> <p>C：相手の気持ちも考える、お互いの気持ちを伝える。</p>

	C：けんかしていても、仲直りをする。 C：きついことを言わない。 C：友達の気持ちが深ければ、いつの間にか仲直りできる。
終末	T：先生は合唱団に所属していますが、つらかったこと、一度は解散したけれども自分の思いを伝えていくことで今の素晴らしい合唱団ができました。だから、自分の思いを伝えることが大事だと思いました。

⑦板書



⑧成果と課題

成果

【育てたい「道徳性」を重視した指導の工夫】

○役割演技について

- ・役割演技により、道徳的態度を引き出すことができた。また、二人の立場の理解を深めつつ役割演技をしている子たちの様子を見させて考えさせたことにより、問題の解決について多面的・多角的に捉えることができた。

【「多面的・多角的」に考える指導の工夫】

○発問の工夫

- ・感情的なものばかりが出てこないように、「吹き出し」を使って補助発問を出したことで、児童の意見をねらいに迫る発言に導くことができた。

○板書の活用

- ・板書を構造的に外側から内側を書くようにしたが、心情を考えるのに有効であった。

課題

【育てたい「道徳性」を重視した指導の工夫】

○役割演技について

- ・ワークシートに記入後、役割演技を行った。児童が安心して話せるよう配慮したが、そのためにつじつまが合わない話も出たので、「教師がやり方を見せる」など他の手だてを考えるとよい。

(3) 第4学年

- ①主題名 私心にとらわれず C 公正、公平、社会正義
②教材名 「二まいの絵」(東京都道徳教育教材集「特別の教科 道徳」移行措置対応)
③研究主題に迫るための手だて

【ねらいとする道徳的価値に関する実態把握と活用】

調査内容：仲良しだという理由で、その友達に合わせたことや理由を記述させる。

調査目的：「公正、公平」における児童の実態を把握するため。

調査方法：事前に意識調査を行う。

考察：4割の児童が「本当は別の遊びがよかったけれど、仲良しの友達に遊びを合わせたことがある」と答えた。この答えの中には、友達への思いやりの他、「断ったら、嫌われる、仲間はずれにされてしまう」という不安な感情をもつ児童もいた。友達との会話の中で「話を合わせたことがある」児童も、同様の思いをもつ児童が多かった。

【育てたい「道徳性」を重視した指導の工夫】

(ア) 判断する理由を明確にする工夫

道徳的判断力をねらいとした場合、判断する理由を明確にする必要がある。真一の絵を選ぶ理由と清の絵を選ぶ理由について、同じ判断の中でもそれぞれ違う根拠があることに気付かせるため、立場を変えて理由を考えさせる。

(イ) 「道徳的判断力」を育てるための教材の選定

二つの絵を選ぶ葛藤場面がある二項対立の教材を使用した。道徳的判断力を育てるには、葛藤場面があり、二つの概念が互いに矛盾、対立しているような内容の教材が適しており、どちらをどのような理由で選択するのかを話し合うことで道徳的判断力が養われると考える。教材によって、対立後、望ましい判断で話が終わる場合と、より望ましい判断とは何だったのか考えさせる終わり方の場合がある。本教材は、二つの絵の主人公が判断をした結果、何を考えたか、その理由を問うことで、公平、公正に接することができる道徳的判断力について考えさせたい。

【「多面的・多角的」に考える指導の工夫】

(ア) 話し合い活動の工夫

- ・「ぼく」の判断の理由に注目し、「心情円盤」を活用する。迷っている気持ちを割合にして表現させることで、判断の根拠を考えさせたい。
- ・小グループでの話し合い活動を入れることで、自分と友達の見方・感じ方の違いに気づき、多面的・多角的に考えられるようにする。

(イ) 板書の工夫

児童が発言した理由を、自分のこと(ぼく)、相手のこと(清、真一、広志)、みんなのこと(クラス全体など)の三つに分類し、板書することで、より多面的・多角的に考えられるようにする。

④本時のねらい

自分の仲間を優先して不公平な態度をとってしまったぼくの気持ちを考えることを通して、

公正、公平に接することができる道徳的判断力を育てる。

⑤学習指導過程

	学習活動 (○主な発問 ・ 予想される児童の反応)	◆指導上の留意点●発問の意図 ◇評価
導入	1 教材やねらいとする価値への導入を図る。 ○アンケートの結果をお知らせします。	●意識調査の結果を知らせることで、ねらいとする価値への方向付けをする。
展開	<p>2 教材「二まいの絵」を読んで話し合う。 ○どうしよう…と考え込んでしまったぼくは、どちらに投票しようかと迷っているのですか。どんな理由で(真一・清)に投票しようとしているのでしょうか。</p> <p>(真一に投票)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・真一と目が合ったから。 ・1年生から仲の良い仲間だから。 <p>(清に投票)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時間をかけて丁寧に描いた絵だから。 ・清の絵の方が上手だから。 <p>(迷っている)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どちらにするか決められない。 <p>◎黒板のキャラクターの絵を、じっと見つめるぼくはどんなことを考えていたでしょう。</p> <p>【自分のこと (ぼく)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本当は清に入れようと思っていたのに。 ・後悔している。 ・自分の気持ちに正直にしていればよかった。 <p>【相手のこと (清、真一、広志)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・清の絵が上手だから ・広志は友達だからといって、選んだわけではないから。 ・真一は、1年生からの友達だから。 <p>【みんなのこと (クラス全体のこと)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クラスの代表を選ぶから。 ・運動会の絵を選ぶから。 ・人で選ぶのではなく、絵を見て選んだ方がよい。 	<p>◆登場人物の関係を場面絵を活用して確認する。特にぼくや広志にとって真一は大切な友達であることをおさえる。</p> <p>●公正、公平と友情の価値の間で葛藤する主人公の気持ちに共感させる。</p> <p>●真一、清それぞれの立場から発言させ、多面的・多角的な見方から考えさせる発問。</p> <p>◆迷いを心情円盤で表し意図的に指名する。</p> <p>意図的指名の順番 心情円盤を用いて数の少ない方から指名する。</p> <p>●清を選べばよかったことを後悔していることや、広志の行動について、その理由を問うことで、様々な判断があることに気付かせたい。</p> <p>◆小グループで話し合う活動を入れることで、自分と友達の見方・感じ方の違いに気付き、多面的・多角的に考えられるようにする。</p> <p>◆児童が発言した理由を、自分のこと(ぼく)、相手のこと(清、真一、広志)、みんなのこと(クラス全体など)の三つに分類し、板書する。</p> <p>補助発問 「ぼくと同じ理由で広志やみんなも真一を選んでいたらどうなっていたか。」</p> <p>●不公平な行動がどのような影響を与えるか考えさせることができる。</p> <p>補助発問② 「友達の真一を選んでしまったことは、本当にいけなかったのかな。」</p> <p>●本来の目的である「クラスの代表の作品を選ぶ」ことを想起させる。</p> <p>◆最後にもう一度心情円盤を動かし、清の絵を投票するのに大きく変化した児童を意図的に指名し、そう判断した理由を聞く。</p> <p>◆心情円盤を二つ準備し、視覚的に心情の変化が分かるようにする。</p>

補助発問①自分の仲間を優先しなかった広志をよく思わない気持ちが出てきた場合に、不公平な態度がキャラクター投票にとってどのように影響するか気付かせたい。この発問は第三者の立場で、公正、公平について再度考えさせることができる発問であると考え。

補助発問②本来の目的である「クラスの代表の作品を選ぶ」ことを想起させ、自分中心の考え方でなく、相手のことや、みんなのことを考えることの大切さに気付かせ、中心発問の一助にしたい。

補助発問を行うことで、ねらいとする価値に迫り、様々な判断や立場から多面的・多角的に考えさせたい。

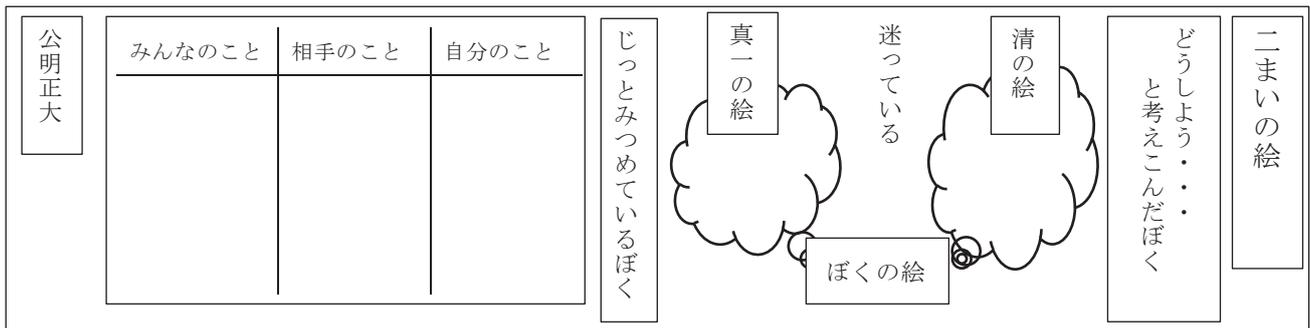
	<p>3 自分のことを振り返る。</p> <p>○どのようなことを学びましたか。これからどうしていきたいですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広志のように友達につられず、よいと思った作品を選ぶことの大切さを学んだ。 ・クラスの代表を選ぶから、友達だからという理由で選ぶよりも、正しいと思った方を選びたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆書き終えた児童から友達同士で伝え合い、様々な考え方があることに気付かせる。 ◆意図的に指名して発表させ、その感想を聞くことで、ねらいとする価値について深める。 <p>◇公正、公平な判断をしていこうとする記述がされているか。</p>
終末	<p>4 教師の説話を聞く。</p> <p>○「公明正大」という四字熟語を紹介します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆公明正大の意味『「公明」は公平で私心のないこと。不正や隠し立てがないこと。「正大」は態度や行動などが正しくて堂々としていること。』を伝え、余韻を残して終わる。

⑥授業記録

教師の発問と児童の反応・発言など	
導入	<p>T：仲良しだからという理由で、友達に合わせてしまったことはありますか」というアンケートを覚えていますか。今回、4年2組のアンケートの結果を集計してみました。</p> <p>C：覚えている。 C：似たようなことがある。</p>
展開	<p>T：（場面絵を黒板に貼りながら、「二まいの絵」の教材を読む。）</p> <p>T：どうしよう…と考えこんでしまったぼくは、どちらに投票しようかと迷っているのでしょうか。ぼくの気持ちを心のメーターで表してみましよう。清は黄色、真一は緑です。みなさんだったら、どう表しますか。</p> <p>T：（心情円盤を上げさせる。）真一（緑）の方が多かった人は教えてください。</p> <p>C：友達だし、「友達だろ」って言われたら嫌だから。 C：真一に見つめられたから。</p> <p>C：真一の絵にしようかと心に決めていたから。</p> <p>T：去年の代表は真一でしたね。では、清に入れようと迷っている人、教えてください。</p> <p>C：清の方がうまい。自分で考えて。 C：頑張っていたことがわかるから。</p> <p>T：真ん中の人いますか。（清と真一の半々で迷っている人を聞く）</p> <p>C：友達だけど、入れてくれると（真一は）思っているだろうけれど、清がうまいから迷う。</p> <p>T：（板書に「迷う」と書く。）こんなに迷っていたけれど、選んだのは真一の方でしたね。じっと見つめるぼくはどんなことを考えていたのでしょうか。</p> <p>C：真一に入れたけれど、広志は他の子に入れている。</p> <p>C：後悔している。清にすればよかったと。 T：理由を教えてください。</p> <p>C：真一は認めて選ばれたいと思っている。 C：友達だから真一を選んでしまった。</p> <p>T：じっと見つめて、後悔しているって言っていたけれど、ぼくが結局真一を選んでしまったことってだめなことなのでしょうか。だって、友達ですよ。</p> <p>C：絵をちゃんと見ていない。 T：なぜ絵を見て決めなきゃいけないのですか。</p> <p>C：いいと思うキャラクターを選ぶ。 C：友達に入れてしまうと、うまい絵が選ばれない。</p> <p>C：絵を見て、キャラクターを選ばないといけない。</p> <p>T：それでは、二つ目の心情円盤を出してください。じっと見つめていたときのぼくの心の様子を表してください。大きく心情円盤が動いた人は理由を教えてください。</p>

	<p>C：いいなあと思った方にした。C：半分だったけれど、もっと正直になってもよかった。</p> <p>T：今日の学習を通してどんなことを学びましたか。これからどのように生かしていきたいですか。心のつぶやきノートに書いてみましょう。</p> <p>C：友達だからではなく、正直に選ぶ。これからは友達だけではなく、学校みんなが仲間だから…。</p>
終末	<p>T：最後に、先生からの言葉のプレゼントです。「公明正大」。みなさんで読んでみましょう。公明は公平で私心のないこと。私心は自分の気持ちということですね。正大は、態度や行動が正しく堂々としていることです。</p>

⑦板書



⑧成果と課題

成果

【育てたい「道徳性」を重視した指導の工夫】

○教材の選定

- ・「道徳的判断力」を育てるための教材を選んだことにより、多様な価値に触れ、考えられたのがよかった。

【「多面的・多角的」に考える指導の工夫】

○板書の工夫

- ・判断理由を、自分・相手・みんなのことの三つに分類することで、児童の判断基準が明確になった。

○話し合い活動の工夫

- ・心情円盤を二つ活用したことで、児童の変容を視覚的に捉えることができた。
- ・中心的な発問のときに意見交流をしたことにより、児童が多面的・多角的に考えられた。

課題

【育てたい「道徳性」を重視した指導の工夫】

○教材の選定

- ・多様な価値が出てきたので、ねらいとする価値をしっかりと考えさせた方が良い。
- ・補助発問②は友情の価値と混合しやすかった。児童にとっては補助発問①の方が公正、公平の価値について判断しやすかった。

【「多面的・多角的」に考える指導の工夫】

○板書の工夫

- ・判断した理由を言葉で明確に板書するとよい。

(4) 第5学年

①主題名 きまりの意義 C 規則の尊重

②教材名「借りたはずの自転車」(東京都道德教育教材集 「特別の教科 道德」移行措置対応)

③研究主題に迫るための手だて

【ねらいとする道德的価値に関する実態把握と活用】

調査内容：きまりの種類やそれを守ること、きまりの存在理由、自分が他者のために気を付けていることを記述させる。

調査目的：「規則の尊重」における児童の内面的実態を把握するため。

調査方法：事前に意識調査を行う。

考察：児童は、自分を取り巻く環境には何らかの「きまり」があることを認識していることがうかがえる。きまりの存在理由については、「集団生活を送る上でみんなが安全にかつ、気持ち良く過ごすために必要」という記述が多く、「きまりがないと自制が効かず、好き勝手にする者が出るから必要」も挙げられた。このことに関連し、「自分が他者のために気を付けていること」の問いでは、「学校のきまりを守っている」、「時間や約束を守っている」とする記述が多くあったが、「特に意識していない」という記述もあった。これらから、きまりは集団生活を送る上で必要なものであるが、それに頼り、自律的に守る意識が希薄になっている面もあることが分かった。

【育てたい「道德性」を重視した指導の工夫】

(ア) 教材の選定

本教材は、主人公であるたかしが、塾のテストに遅れてはいけない状況の中、親友の自転車を借りるに当たり、声を掛けるべきかどうか迷う姿が書かれている。この迷いに焦点を当て、迷いの根拠を一人一人の価値観に基づいて話合うことで、児童が道德的価値を多面的・多角的に捉え、道德的判断力を育てることができる教材であると考えた。

(イ) 発問構成の工夫

導入では、個人間の物の貸し借りにおける守るべきことを確認し、「きまり」について考えられるよう意識付ける。展開の最初の発問では、「寝坊して急いでバス停まで走っているたかしの気持ち」を問うことで、塾のテストに遅れてはいけないたかしの切迫した状況をつかませる。「無断で自転車を借りたたかしの判断」について、自分はどのように捉えているのかを考えさせる中できまりの意義に気付かせる。また、自分への振り返りの学習では、本時や事前の意識調査を踏まえ、自分との関わりにおけるきまりの意義を考えさせていく。このような発問構成により、きまりの意義を考え、自分の行為が他者に及ぼす影響を知ること、きまりに対して適切に判断する力を育てることができると考えた。

【「多面的・多角的」に考える指導の工夫】

(ア) ハンドサインの活用

ハンドサインを活用することで発言を関連させ、自他の意見を比較し、価値理解や他者理解を深める。

(イ) 話し合い活動の工夫

中心的な発問において、たかしが「声を掛ける」か「声を掛けない」か迷っている場面について児童に考えをもたせた上で、多面的・多角的に考えられるように話し合い活動を行い、道徳的価値の自覚を深めさせる。その後、全体での話し合い活動に移ることで、自分の意見に自信をもったり、友達の意見を取り入れたりして、価値理解や人間理解を深めることができる考えた。

④本時のねらい

友達の自転車を借りるのに声を掛けるかどうかを迷うたかしの気持ちを通して、きまりの意義を考え、適切に判断する力を育てる。

⑤学習指導過程

	学習活動 (○主な発問 ・予想される児童の反応)	◆指導上の留意点●発問の意図 ◇評価
導入	1 ねらいとする価値への導入を図る。 ○「友達同士でも()がある。」()にはどんな言葉が入りますか。 ・きまり ・礼儀 ・思いやり	◆()に入る言葉を考えさせた後に、友達でも守るべき事柄を想起させ、物の貸し借りをする上でのきまりを確認する。
展開	2 教材「借りたはずの自転車」を読んで話し合う。 ○バス停まで全力で走っているとき、たかしはどんな気持ちだったのでしょうか。 ・遅れてしまう。 ・間に合ってほしい。 ・バスに遅れたら大変なことになる。	●バスに乗り遅れると、塾のテストに遅刻してしまう切迫した状況であることを押さえる。
	○ゆうすけの自転車を借りるのに、声を掛けるかどうか、たかしはどんなことを迷ったのでしょうか。 ・声を掛けると遅れてしまう。 ・親友だから何も言わずに借りてもよい。 ・借りることを言うべきか迷う。 ・何も言わなかったら後悔する。 ○たかしの判断について皆さんはどう考えますか。 ・勝手に借りてはいけない。 ・ゆうすけのことを考えていない。 ・自分がしたことをよく考えていない。 ・自分のことしか考えないのはいけない。	●ゆうすけの自転車を見たときの気持ちを考えさせることで、価値理解や人間理解を深める。 ◇自分の意見を述べたり、友達の考えを聞いたりする中で、他者のことを考えることに気付くことができている。 ●自我関与させて、たかしの判断を話し合い、価値理解や他者理解を深めさせる。 ◆建前に終始するときには、児童の考えをゆさぶり、きまりを守ることの難しさについて考えさせる。 ●事前の意識調査を活用し、これまでの自分の考え方を確認させ、学習を振り返らせる。 ◇きまりの意義を考え、これからの生活に生かしていこうという判断の基準をもっている。
終末	3 自己の振り返りをする。 ○今日の学習を通して、「きまり」について学んだことを書きましよう。 ・きまりがないと困る人が出てくる。 ・きまりがあるとトラブルを防ぐことができる。 ・きまりを一人一人が守ることで、みんなが気持ちよく過ごせるようになるから必要。	
	4 教師の説話を聞く。 熊本地震で被災された方々の話をする。	●人は本来、他者を思いやる心をもっており、それがきまりを自律的に守る資質につながっていることに気付かせる。

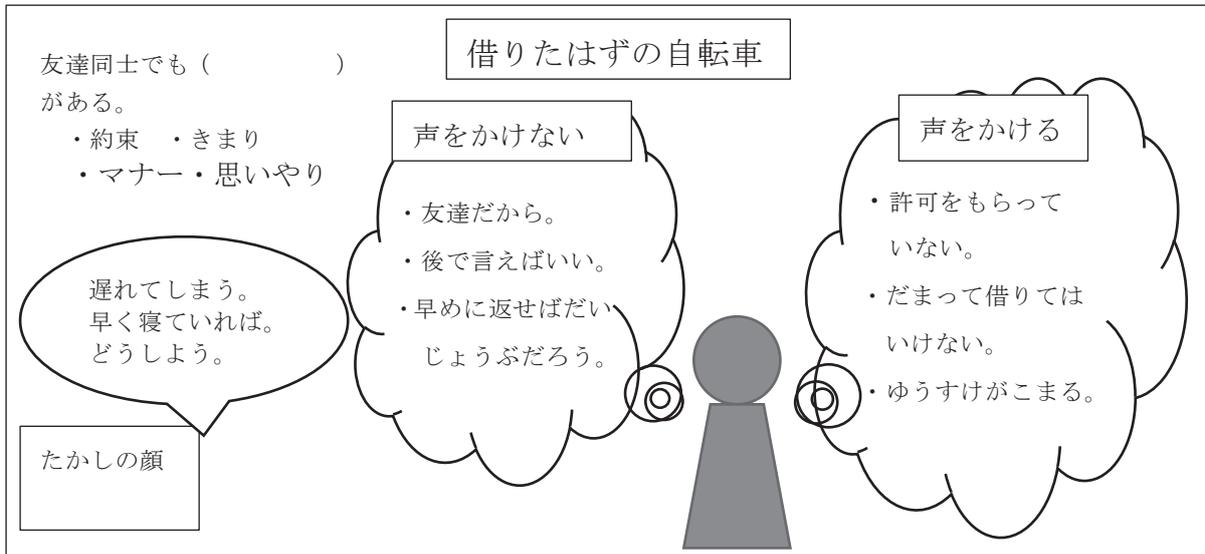
判断力を育むために多様な根拠を出させる発問。

⑥授業記録

	教師の発問と児童の反応・発言など
導入	<p>(板書：友達同士でも () がある。)</p> <p>T：ここに、みんなどんな言葉を入れる？</p> <p>C：限度。 C：ルール。 C：トラブル。 C：礼儀。 C：きまり。</p> <p>T：他にありますか？私はこの言葉を入れます。(板書：守るべきこと)</p> <p>T：今日考える話は、友達同士でも守るべきことを守らなかった話です。</p>
展開	<p>T：(「借りたはずの自転車」の教材を読む)</p> <p>T：主人公のたかしくんは、テストに備えて夜遅くまで勉強しました。 バス停へ必死に走っているとき、たかしはどんな気持ちだったのでしょうか。</p> <p>C：朝もっと早く起きていればこんなことにはならなかった。</p> <p>C：間に合わなかったらお母さんに怒られる。 C：次のバスを待つと、確実に遅れる。</p> <p>T：ゆうすけが最新式の自転車を持っていることをたかしは思い出した。それを借りればテストに間に合う。マンションの最上階に言いに行っていたら間に合わない。 ゆうすけに声を掛けるか、掛けないか迷ってしまった。 みなさんに考えてもらいたいのは、声を掛けるとか掛けないとか、どんなことを迷っているのかということです。(近くの人と話し合わせる。)</p> <p>C：今すぐ借りたいが、声をかけずに借りるのも良くないから迷っている。</p> <p>C：相手に失礼。 C：勝手に借りると、盗んだと思われて心配をかけてしまう。</p> <p>C：遅れたのは自分のせい。借りるのだったら何としても声を掛けてから借りる。</p> <p>T：声を掛けないという理由で悩んでいることは何ですか。</p> <p>C：親友だからいつでも使っていていいよと言われていた。 C：少しくらいは大丈夫。</p> <p>C：ちょっと借りたくらい、気付かないかな。後で事情を話せば大丈夫だろう。</p> <p>C：午前中でテストも終わるし、後で事情を話せば許してくれるだろう。</p> <p>T：たかしが選んだのは、声を掛けないで自転車を借りたことでした。</p> <p>T：たかしの判断をみなさんはどう思いますか。良いか悪いかどちらか手を挙げてください。(良くない→全員) T：良くないと思う理由を考えてください。</p> <p>C：自分勝手。いくら親友だからといって、やって良いことと悪いことがある。</p> <p>C：勝手に借りたら相手が悲しむ。 C：自分が同じ事をされたら、傷付くと思う。</p> <p>C：既に許可をもらっているけれど、それはゆうすけがいるときだと思う。</p> <p>T：友達同士でも、守らなければいけないことがあるということが、「借りたはずの自転車」から分かります。みなさんがきまりをどう捉えていますか。</p> <p>C：相手のことを考えないといけない。</p> <p>C：マナーでもありルールでもある。気遣いが大切だと思う。</p>
終末	<p>T：テレビの画面を見てください。(テレビに行列の画像を映す。)</p> <p>T：何の行列だと思いますか。 C：食料の。 C：水の。 C：災害の。</p> <p>T：熊本で大地震がありました。おにぎり1つもらうために、二時間並んでいました。</p>

相手を思いやる気持ちがあると、きまりやルール、礼儀が自然と身に付くようになるのではないのでしょうか。

⑦板書



⑧成果と課題

成果

【育てたい「道徳性」を重視し、ねらいを明確にした工夫】

○教材の選定

・「きまり」にはマナーやルール、モラルも含まれる。指導する際は、授業者がねらいを明確にもつことで、様々な児童の意見をコーディネートすることができた。

○発問構成の工夫

- ・「声を掛ける・掛けない」にしぼった発問は、児童の思考が広がりすぎずよい。
- ・判断力を育てるために、第3発問で「みんなだったら…」と発問したことは、判断を分析し、その根拠を考える上で有効だった。
- ・児童の「きまり」のイメージを広げていくという点でも、よい発問構成だった。

【「多面的・多角的」に考える指導の工夫】

○話し合い活動の工夫

・3人グループでの話し合いでは、児童が活発に発言したり、聞いたりしたので、価値に対する多様性をもたせることができた。

課題

【育てたい「道徳性」を重視し、ねらいを明確にした工夫】

○発問構成の工夫

- ・「声を掛ける必要があるけれども、声を掛けられない状況」の把握に時間をかけ、児童からきまりを守る難しさや人間の弱さについての意見を出させ、人間理解を深めさせるとよい。
- ・たかしは「借りたはず」、ゆうすけは「盗まれた」という違いが生まれたのは、きまりが守られていなかったのではないかと。授業の展開でその部分に迫ることができるとよい。

VI 研究の成果と課題

成果

(ア) 基礎研究

- ・「多面的・多角的」に考えることの意義、「道徳性」について検討し、研究を進めたことで、児童がより広い視野から道徳的価値について考え、理解を深めていくことができた。また、それを基に授業における効果的な発問や活動方法について具体的に考えていくことができた。

(イ) 調査研究

- ・「自分の考えをもつことができるか」、「友達の考えを聞いて自分の考えをまとめたり深めたりすることができるか」、「学習したことが生活の中で役立っているか」について、アンケート調査を行った。児童の実態を把握し、児童が自分の考えをもち、意見交流をより効果的にする方法について検討することで、授業改善につながった。

(ウ) 授業研究

【育てたい「道徳性」を重視した指導の工夫】

- ・ねらいを焦点化することにより、発問構成を組み立てやすくなった。
- ・場面分析（状況の把握・登場人物の心情やその変化を考える・場面ごとの道徳的価値について考える）をより綿密に行うことで、発問を効果的に行うことができた。
- ・振り返りの時間をしっかり確保し、活動の工夫や支援を行うことで、児童が自分自身について考え、話し合いを深めることができた。

【「多面的・多角的」に考える指導の工夫】

- ・教材提示の工夫や板書を構造化することで、児童が内容を把握しやすくなり、登場人物の心情を考えるのに有効であった。また、児童の判断基準を明確にすることもできた。
- ・複数の人物の気持ちを考える、自我関与を促す等、発問の仕方について検討・工夫をすることで、児童はより広い視野から様々な立場で物事を見ることができた。また、自分のこととして捉えたり、考えを深めたりすることができた。
- ・動作化や役割演技、話し合い活動を取り入れることで、児童は様々な立場から考えることができた。また考えを共有することが、考えを深めるために役立った。

課題

【育てたい「道徳性」を重視した指導の工夫】

- ・教材や児童の発言によっては、多様な価値が出てきたりする場合もあるので、発問内容やその構成についてより考えていく必要がある。

【「多面的・多角的」に考える指導の工夫】

- ・児童の考えの幅が広がりすぎてねらいとする価値からずれてしまうことも考慮し、場面のしぼり込みや登場人物の気持ちと自我関与とを明確に分けることについて考えた発問を行う必要がある。
- ・動作化や役割演技については、児童が設定を共通理解し、場合によっては教師が児童と共に行う必要がある。

平成28年度 教育研究員名簿

小 学 校 ・ 道 徳

学 校 名	職 名	氏 名
杉 並 区 立 杉 並 第 一 小 学 校	主任教諭	弘井 一樹
杉 並 区 立 新 泉 和 泉 小 学 校	主幹教諭	中村 淳子
豊 島 区 立 仰 高 小 学 校	主任教諭	椎名 真紀
荒 川 区 立 赤 土 小 学 校	主任教諭	中村 優太
板 橋 区 立 板 橋 第 六 小 学 校	主任教諭	大里 雅美
練 馬 区 立 大 泉 第 一 小 学 校	主任教諭	中西 宏
葛 飾 区 立 南 綾 瀬 小 学 校	主任教諭	森本 響子
江 戸 川 区 立 平 井 西 小 学 校	主任教諭	前田 進一
江 戸 川 区 立 宇 喜 田 小 学 校	主任教諭	山中 麻衣
江 戸 川 区 立 西 葛 西 小 学 校	主任教諭	加藤 千香
東 大 和 市 立 第 八 小 学 校	主任教諭	◎平田 由布
清 瀬 市 立 清 明 小 学 校	主任教諭	坂野 裕美
東 久 留 米 市 立 第 九 小 学 校	主任教諭	○三井 伸也
あ き る 野 市 立 屋 城 小 学 校	主任教諭	若泉 寿人
日 の 出 町 立 大 久 野 小 学 校	主任教諭	長保 雄一

◎世話人 ○副世話人

〔担当〕 東京都教育庁指導部指導企画課
指導主事 杉 山 茂

平成28年度

教育研究員研究報告書
小学校・道徳

東京都教育委員会印刷物登録

〔平成28年度第142号〕

平成29年3月

編集・発行 東京都教育庁指導部指導企画課
所在地 東京都新宿区西新宿二丁目8番1号
電話番号 (03) 5320-6849
印刷会社 株式会社オゾニックス